

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 赤前

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200178		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	グループホーム 赤前		
所在地	〒027-0202 岩手県宮古市赤前4-8.3.		
自己評価作成日	令和5年9月17日	評価結果市町村受理日	令和5年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、職員共に活気あるホーム作りを意識し、心掛けています。ケアは入居者様がその人らしく生活できるよう個別ケアを行っている。ホーム内の取り組みとしてできる限り自宅の雰囲気と近い環境で普通の暮らしができるよういきすぎた介護にならないよう入居者個々に対しチームケアに取り組んでいます。スタッフには毎月内部研修を行い、日々ケアの向上に努めている。新型コロナウイルス感染防止の為、ボランティアの受け入れを中止していましたが、可能な限り希望に沿いながら、外出支援を行い季節にあわせた行事や取り組みを開催しています。また、コロナ禍でも家族等の面会の機会をできるだけ確保しています。職員は月に1回、理念の読み合わせも行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、復興整備が概ね終了した住宅地に立地し、周辺には保育園、県立学校や事業所、畑等に囲まれている。近隣の高台にあるこども園は、震災発生時利用者が避難した施設で、現在は災害時の協定を結び、避難訓練では職員の派遣等もいただき、毎月、避難訓練を実施し、火災や津波等への備えについては特に力を入れている。事業では「真心」を中心に据えた理念に基づき、優しい気持ち、笑顔、思いやり、良好なチームワークでケアを行うこととし、毎月の職員研修で介助等の充実に努め、利用者の安心感にも貢献している。不適切ケアの防止のため、虐待の芽チェックリスト(高齢者権利擁護支援センター作)により年に数回各職員が自己チェックを行っており、虐待等防止を徹底している。利用者の要望等もあり、気分転換等を兼ねて可能な限り外出することとし、市内や近隣町村へドライブし景色や食を堪能するなど、サービスの充実に努めている

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、日々の介護またはケアを理念に照らし合わせ管理者、職員が情報を共有し、実践を行っている。	法人の企業理念やグループホームの理念を職員会議や朝夕のミーティングを通じて職員間で共有し、利用者に寄り添い、利用者の要望等を聴き取り、利用者と同じ目線で話しかけ、笑顔で接し、利用者一人一人の個性を大切に、きめ細かな介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスで地域の方々と交流は減ってしまったが、運営推進会議等で地域の方にも参加して頂き交流している。	こども園との交流を再開し、こどもによる歌、遊戯、肩もみなどを楽しんでいる。ボランティアの受け入れはできていないが、昨年は看護学校の学生1名が体験実習に訪れている。近隣を散歩した際には地域の方が声掛けしてくれるなど、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスで地域の方々とも交流が減ってしまい、なかなか難しい状況。相談があれば電話等での問い合わせには応えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、活動報告、行事、身体拘束等の研修報告を伝えている。	入居者、入居者家族、自治会長、こども園長及び市の担当者等がメンバーとなり、2ヵ月毎に開催している。5月には身体拘束等に係るアンケート集計結果を報告し、市担当者から言葉遣いについての助言を得ているほか、感染症対策や避難方法などの意見等を運営に活かしている。利用者代表による意見は、利用者への理解ときめ細かなサービスの提供に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただいております。酸素療法等分からない事があれば相談している。	市や社協が開催する研修会に参加し、介護技術の向上に役立てている。日常生活で酸素療法が必要な方がおり、市の担当者から使用についての助言をいただくなどしている。市からは適宜、メールやFAXで情報提供いただき、業務に役立てている。災害情報は防災ラジオで聴取している。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 赤前

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや内部研修で職員に周知されている。2~3か月スパンで開催を行い、安全を第一に拘束をしないケアに努めている。	職員4名による委員会を開催し、会議の結果を職員に周知している。定期的な内部研修のほか外部研修にも参加し、その復命研修を実施している。身体拘束アンケートを行い利用者の意向と現況を把握している。利用者への言葉遣いや話し掛ける際の目線の高さに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修等でなぜ虐待が起こるのか定期的に話し合いをしている。万が一虐待があった場合でもその場で注意できる職員関係に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人の手続きを行った事があるが、現在は活用に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に説明をしている。十分に理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ以降面会が減ってしまったが、電話での連絡、報告を行い、意見や要望を引き出せるよう努めている。	機関紙「まごころ便」で利用者の生活状況を家族にお知らせし、家族の来所や電話連絡の際に意見等を伺い、要望に対応している。運営推進会議での利用者の意見や日常生活で耳にした意向に対応し、好みの食事、お手伝いへの参加などに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでの意見交換、提案を出し合い検討している。職員個々の意見も聞くようにしている。	個人面談は行っていないが、日頃の会話の中やミーティングを通じ要望等を把握している。職員の資格取得への支援、研修会参加のほか、少人数による近郊へのドライブ、室内でのイベントの実施、手すりや玄関スロープの設置など、業務や設備の改善に活かしている。	

事業所名 : グループホーム 赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に入っていて職員の勤務状況も把握している。希望休は聞き入れ勤務表を作成し向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を受け、介助の仕方、コミュニケーションの取り方等日々学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近は全く行っていない。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族様から伺った情報等を職員が共有し、入所直後は、状態をみながら特に注意し見守りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細なことも早めに家族さんに連絡、相談し安心に繋げるようにし、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族様のニーズを把握し、必要に応じて他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、コミュニケーションを図り、同じ時間を共有し時には励まされたり、癒されたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関受診の際同行していただいたり、電話等で関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以前は親戚の方や、友人が来訪され、本人と会話し楽しい時間を過ごされていた。コロナ後は電話や手紙等でやり取りし関係が途切れないよう努めている。	利用者の旧友や親戚の方が来所することがある。お盆の墓参りは、数名が日帰りで家族と一緒に出かけている。今年は地域の山車の祭りに出かけることができた。毎月、最初の月曜日に理容師の訪問があるほか、1名が家族同伴で馴染の美容店に行っている。市主催の敬老会の記念品が届いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者全員でレクを行ったり、トラブルが起きた時は職員が間に入り利用者同士の関係が崩れないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した際は、電話等でやり取りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのかかわりを大切に考え、本人の言葉や動きの中から意向を把握して職員間の情報交換をし、実現に努めている。	お手伝いの洗濯干し、たたみ、食器洗い、料理の下準備、掃除などの協力を得ている。そばを食べたいとの意向を汲み取り、市内の駅や海の景色を見たいなどの要望を叶えている。なお、外食も適宜企画するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの暮らし方、生活環境を聞きグループホームでも同様の生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態等はケース記録を活用し、把握できるよう努めている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 赤前

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ミーティングを開催し、職員間で情報を共有しそれぞれの意見を聞き入れ介護計画を作成している。	介護計画は、職員ミーティング時に職員間で情報共有のうえ、ケアマネが最終的に整えている。モニタリングは、ケアマネと管理者で行い、ケアマネが作成したアセスメントシートを活用している。計画は基本6ヵ月毎に見直している。主治医や看護師からの助言も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1回カンファレンスを開催し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情も考慮し利用者のニーズを考えながら、お互いが納得できる支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者によっては、職員と一緒に買い物に行ったりしている。本人の希望するものを購入する等、喜びをもってもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約の際、かかりつけ医、受診している病院等聞き取りをし入所しても引き続き受診できるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医10診療機関に、月1回は受診している。家族同伴が3名、家族の要請により職員同行が6名である。受診の際には、バイタルチェック表ほか、生活情報をメモ等で伝えている。整形、外科、皮膚、脳神経科、泌尿器科も同様である。コロナ禍の予防接種は本社指定医が、インフルエンザの予防接種はかかりつけ医が行なった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、看護師との間で申し送りをを行い、ノートに記入していただき職員にも回覧している。何かあった際は職員も看護師に相談している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者状態、薬情報等1つのファイルに一人ひとりまとめてあります。入院した際はそれで情報交換を行っている。不備があった場合は、電話でやり取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には契約の際、説明してあり重度化した時点で医師、家族、管理者、看護師が話し合い家族の要望に沿った対応をしています。日々の状態変化については電話で家族とやり取りしている。	入居時に重度化した場合の対応について、家族等に説明し了承を得ている。重度化した場合(看取り)の指針を作成しているが、看取りの経験はない。重度化した場合は、家族に改めて説明し、意向に沿って医療機関、特養等に移送している。	終末期の介護サービスについて、研修会や勉強会を通じて、職員の知識や技術の等の充実を図ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員ではないが消防の救命救急を受けている。感染症対策研修等は日々の内部研修に取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の自主避難訓練、年2回消防立会い訓練、避難持出し備品等定期的にチェックまたは実施している。夜間、近隣の職員の確保もしている。	毎月、津波や火災を想定した避難訓練を実施している。年2回消防署員立会で訓練を実施し、講評では大きな声を出して火元等から離れることを指導され、併せてAEDや消火器等の扱いの指導も受けている。運営推進委員による見守り支援も受けており、こども園とは防災協定を結んでいる。食料3日分と発電機を確保している。ハザードマップ上で水害の危険地域となっており、500m程離れた旧赤前小学校が避難場所になっている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、周囲にも気を配ったさりげない声掛けや支援を行っている。	個人情報とは個別にファイルして事務室で保管し、PCではパスワードで管理している。入浴、排泄など、異性介助は特に問題ない。居室への入室には、声掛け、ノックをしている。新人職員へは、特にマナーや言葉遣いに関して随時指導している。元看護師の利用者に車イスの手押しをお手伝いしてもらうなど、前歴や自尊心を大切にしている。	
----	------	--	---	--	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日、その場の表情、行動、言動から本人の思っている事や観察をしコミュニケーションを図りながら思いを引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、意思を確認して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人にどれを着たいか確認し、声掛けをしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が好きか一人ひとりに聞き、行事食、昼食作り等も行っている。作る際は、利用者も食材を切ったり食器洗いを行ったり手伝いをしている。	調理は職員が行い、メニューは、業者の作成のものから選択している。利用者の希望や季節、行事に合わせて注文している。行事食は、ひつまみ、芋の子汁などを提供し、利用者も手伝ってくれている。また、調理の際には、利用者が率先して下準備や食器洗いなどの手伝いもしてくれ、楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は本人に聞いている。カンファレンスを用いて水分摂取量等、職員間で意見交換を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに声掛け誘導、介助が必要な方は職員、管理者が口腔ケアを行っている。歯医者を受診している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ほとんどの方が、リハビリパンツ、パットを使用している。トイレでの排泄はチェック表を用いて声掛け、誘導をしている。	排泄チェック表で、動向を把握して誘導するほか、食後や就寝前は声掛けしている。夜間のポータブルトイレ利用者はおらず、車イス利用の方1名はパット交換している。布パンツは1名で、他はリハビリパンツにパットを併用している。トイレでの排泄の自立を支援をしている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 赤前

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者によっては下剤を服用したり、運動を行ったりしている。職員は看護師から意見を聞き取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回入浴していただいております。入浴拒否する方も少なく喜んで入って頂いています。	週3回、午後の入浴とし1日3名ほどが入浴している。行事などで、午前の入浴となる場合もある。介助は頭、背中を流し、他は利用者に任せている。入浴時は、世間話や昔話で楽しんでいる。水虫対応の足湯、乾燥肌へのクリーム塗布も行なっている。車椅子利用の方は、シャワー浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後等、一人ひとりのペースに合わせて休んだり、生活していただいております。転倒防止の為、センサーも使用しています。(家族了承済み)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報等、看護記録に綴じ職員がいつでも確認できるようにしています。服薬の支援は手渡しにて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員、利用者全員で外食ドライブに行ったり、時々散歩に行ったり気分転換しています。洗濯干し、洗濯たたみ等出来る事は行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々、ドライブ等外出する機会を設けている。公共施設で食事をしたり、家族が迎えに来て外出支援を行っている。	毎日午前中にレクリエーションの時間を設け、数人で外出することが多いほか、晴天の日にはドライブで近隣の町村へ出かけている。ほぼ全員が2、3名ずつで散歩している。年間計画で花見や紅葉時には近隣町村等へ出かけて自然と触れ合う機会を作っている。お盆や正月には、日帰りで自宅に戻る利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約の際、金銭出納管理に関する同意を家族さんにしていただいております。管理者が金銭を管理し、本人から申し出があった場合は職員と一緒に買い物に出掛けたりし、支援をしている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 赤前

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人から電話がかかってきたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの食席は利用者の相性等を考慮し過ごしやすい場を作っている。ホール内には季節に応じた花や飾り付け、地元の保育園との交流した時の写真が飾られていて、利用者もそれを見て楽しまれています。	ホールは広いロビーにテーブル、ソファ、テレビが配置され、室温は24度に保たれている。夏はエアコン、冬は加湿器で温度調整している。ホール内は壁を白色に張替し明るい。壁には柿の木の張り紙やハロウインの飾りも施され、利用者の塗り絵や訪問された方々の色紙、子どもたちとの交流会の様子写真なども飾られており、交流の様子なども垣間見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が会話している時もあり、その時は見守り対応しています。職員もコミュニケーションを図り楽しく過ごせるよう日々支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約の際、本人、家族と相談し、日当たりがいい居室等決めていただき、家で使っていた家具、写真等持ってきていただき安心し癒されるよう配慮している。	室温はパネルヒーター、エアコンで24度に保たれ過ごしやすい。ベッド、クローゼット、電話端子、ナースコールが備え付けられている。各々、室内には好みの猫の写真や家族の写真、椅子やテレビ等を持ち込み過ごしやすい。なお、各居室にはさくらやかえでなどの名前を付け、親しみやすい配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外にはスロープ設置。転倒防止の為、玄関には段差がなくなるよう坂を設置。安全に生活していただく為。		